子どもの広場

【ふれあい遠足】

１，２年生は，色別班でペアを組み，仲良く手をつないで「桜の園」まで行きました。到着した後は，色づいた葉っぱや木の実を集めながらの「秋見つけ」。「わあ，たくさんある！」「ここにもこんなのがあるよ！」という声がたくさん響きました。常にペアやグループを意識しながら活動し，互いに教え合ったり気遣い合ったりする姿もたくさん見られました。その後は，布勢運動公園へ移動し，弁当を食べたり遊具で遊んだりして思いっきり楽しみました。１年生と２年生が，今まで以上に仲良くなることができた遠足となりました。

３，４年生は，とっとり出合いの森に行きました。１つめのお楽しみは，行く途中に寄った「水と緑のオアシス　とっとり２０１３」です。きれいに咲いた花を見たり，会場に置かれた自分で色塗りをした鉢を見つけたりして，とても嬉しそうでした。２つめのお楽しみは，みんなで食べる弁当。３年生と４年生が仲良く話をしながら食べていました。３つめのお楽しみは色別の班ごとに森のアスレチックを回るウォークラリー。いかに設定タイムに近い時間で戻って来られるかと，各チェックポイントの先生と全員でジャンケンをして勝ったポイントを競い合いました。この遠足を通して，中学年の絆がより一層深まりました。

５，６年生は，ハゼ釣りをメインの活動とし，湖山池に出かけました。竹に仕掛けを結んだ簡単な釣り竿を作ってチャレンジしました。初めて釣りをする子どもたちも多くいましたが，わくわくタイムで毎週一緒に活動しているグループで協力しながら，合計３０匹以上のハゼなどを釣り上げました。釣りの得意な子どもたちが初めての友達に仕掛けを作ってあげたり，えさをつけてあげたりと，大漁の喜び以上にほほえましい光景も見られました。その後，青島公園に移動し，弁当をおいしくいただきました。湖山池の豊かな自然と命の恵みに感謝することのできた一日になりました。

【なかよし交流会～1年生】

ふれあい遠足のときに集めた木の実や，尚徳の森で拾った落ち葉などを使って秋の遊びを工夫し，附属幼稚園の年長児２６名と一緒に遊びました。秋のなかよし交流会は，ドングリの的当てゲーム・松ぼっくりけん玉・秋のレストラン・木の枝の輪投げなど楽しい遊びがいっぱいでした。１年生は遊びコーナーを一緒に巡りながら，自分のことよりも年長児のしたいことを優先して，優しく接する様子が見られました。春の交流会のときよりも一段と頼もしくなったようです。一緒にお弁当を食べたり，教室で遊んで過ごしたりした後，「また１月に遊ぼうね。」と手を振ってお別れしました。

＜ようこそ書道コンクール＞

優秀賞	４年	中島諒子
金賞	２年	戸田結子
	３年	田村諒太
	４年	水野愛唯
	６年	中村早希
銀賞	２年	松本紗可
	３年	江谷美咲
	３年	杉山泰知
	４年	石賀厚志

＜ＭＯＡ美術館鳥取児童作品展＞
（書写作品展）

鳥取県知事賞	２年	戸田結子
MOA 美術館奨励賞	２年	戸田結子
鳥取市長賞	６年	中村早希
MOA 自然農法特別賞	３年	田村諒太
金賞	４年	中島諒子
	５年	荒木万弥
銀賞	４年	水野愛唯
	５年	岡田ここ寧
銅賞	６年	谷口彩容

＜鳥取市児童作品展出品＞

１年	本城ちはや	加藤悠介
２年	岡野世奈	吉永真梧
３年	上田晴明	山下真美
４年	廣本なのは	米井みつは
	山田遼太郎	本城そらみつ
５年	井上竣太	山下瑞貴
６年	長谷川佳音	坂口萌香

応用し活用する力を

中西　一月

『一人の男がホームに向かって走っていた。ホームの近くまで来たとき、彼はマスクをした男に出会った。すると、彼は男に背を向け自分が来た方向へ駆け戻っていった。どうしてだろう？』

小学生のころ、こうした「なぞなぞ物語」が流行りました。誰が一番に謎を解くか、クラスのみんなで競い合ったことを今でもよく覚えています。

最近になってそのことをよく思い出すのは、子どもたちが算数の問題を解くときの手順が「なぞなぞ物語」の謎解きのそれとそっくり同じだからです。

・この物語で分かっていることは何か
・この物語でわからないことは何か
・この物語でもっとよく知りたいことは何か

この三つをよく考えること。「物語」を「問題」に置き換えると勉強に、「状況」に置き換えると現実生活で直面する様々な場面に応用できます。

授業で、遊びで――毎日の生活の中で難なくこれをこなしていく子どもたちの姿に、「私もしっかり『応用』し『活用』しなくちゃ・・・」とよい刺激をもらっています。

＊答え＝野球の試合だったから